

ふるさとのか

岡谷市立岡谷田中小学校長 竹内 良之

自己紹介

□略歴

諏訪清陵高等学校卒業(92回生 永明学友団)
千葉大学教育学部 卒業

松本市立島内小学校 真田町立菅平小中学校 木島平村立北部小学校
岡谷市立岡谷小学校 信州大学教育学部附属長野小学校
岡谷市立田中小学校(学校統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり中核教員 県教委)
岡谷市立岡谷田中小学校(学校統合を契機とした魅力と活力ある学校づくり中核教員 文科省)
岡谷市教育委員会主任指導主事兼学力向上専門官兼副参事
阿智村立阿智中学校長
岡谷市立岡谷田中小学校長

□趣味

スキー(テレマークスキー) ランニング 読書

安心安全な暮らしのために ～学校教育とサイバーセキュリティの現場から～

学校における危機管理

学校保健

学校安全

食育（給食リスク）

教師不足

少子高齢化

人口減少 等

学校における危機管理

【学校保健】

近年、社会状況等の急激な変化に伴い

- 児童生徒の生活習慣の乱れ
- 児童虐待などの心の健康問題
- アレルギー疾患
- 感染症
- いじめや不登校
- 性に関する問題
- インターネット・ゲーム障がい
等様々な健康課題が生じている

学校における危機管理

【学校安全】

- 交通安全 自転車事故 通学路 登下校
- 防災教育 地震 災害 豪雨 落雷 熱中症
- 薬物 大麻ここ10年で3.7倍
- 性犯罪・性暴力対策の強化 法律の整備
- 生命（いのち）の安全教育 SOSの出し方教育

学校における危機管理

【食育】

- ・食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付ける（国の食育基本法）
- ・食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心の健康の保持増進に関する指導については、体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること（学習指導要領）

【給食リスク】

- | | |
|-------------|-----------|
| 1 食中毒の防止 | 2 異物混入の防止 |
| 3 食物アレルギー対応 | 4 窒息事故防止 |

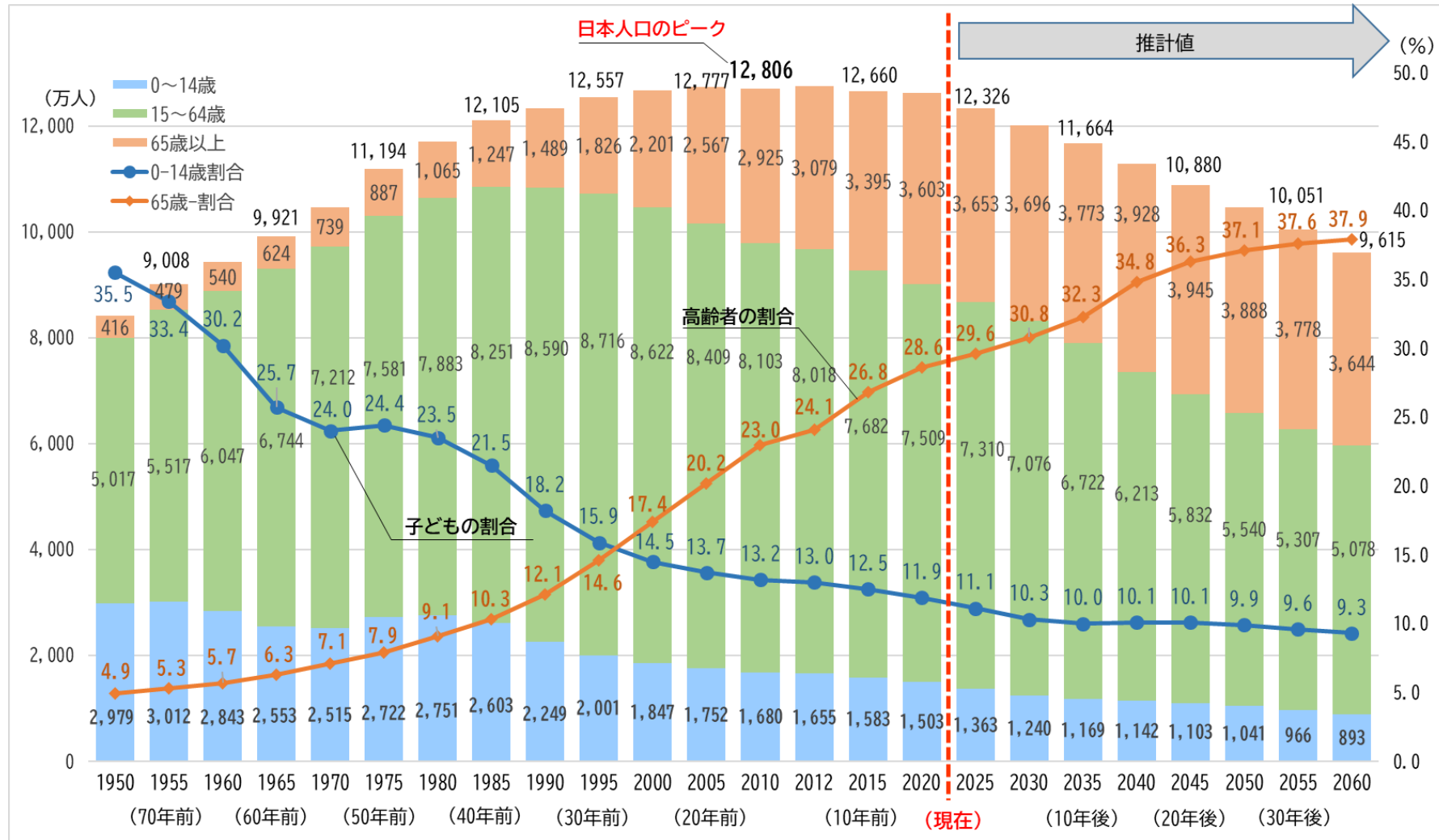
児童生徒等の心身の健康課題の解決を図るためには、学校が専門機関と連携し、専門的なアドバイスを受けることにより、チーム学校による支援体制につなげていくことが重要

関係諸機関との連携

- ・医療
- ・SSW(スクールソーシャルワーカー)
- ・SC(スクールカウンセラー)
- ・教育委員会
- ・児童相談所
- ・警察
- ・コミュニティ・スクール
- ・PTA
- ・学校評議委員
- 等

チー ム 学 校

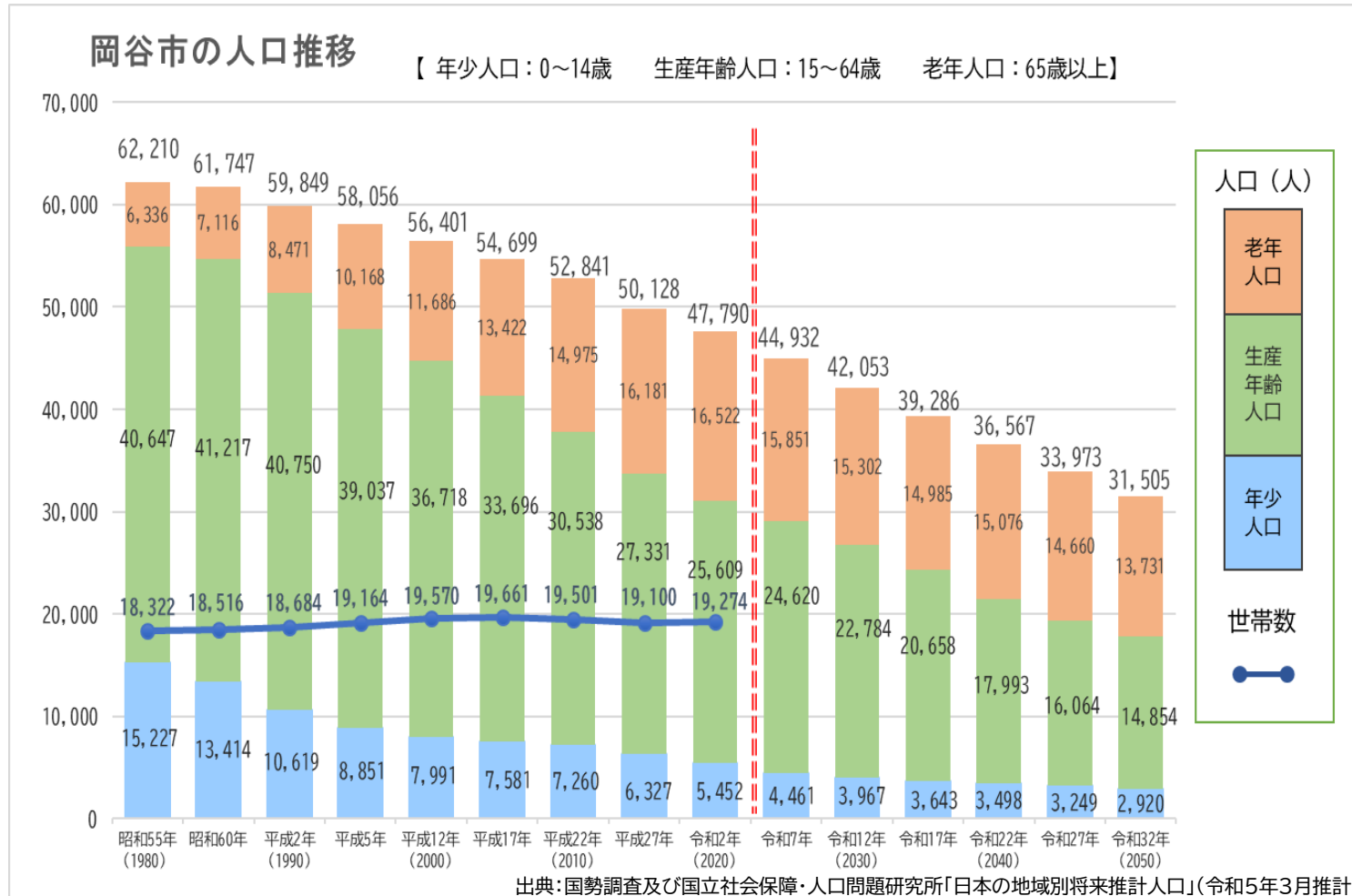
日本の人口と将来推計



日本の総人口は、2010年(平成22年)を境に減少に転じた。人口減少は国政や経済の維持、経済、年金、医療、介護等の社会保障制度にも大きな影響が生じる。

岡谷市の人口推移

岡谷市人口 **45,594**人 (令和6年6月時点)

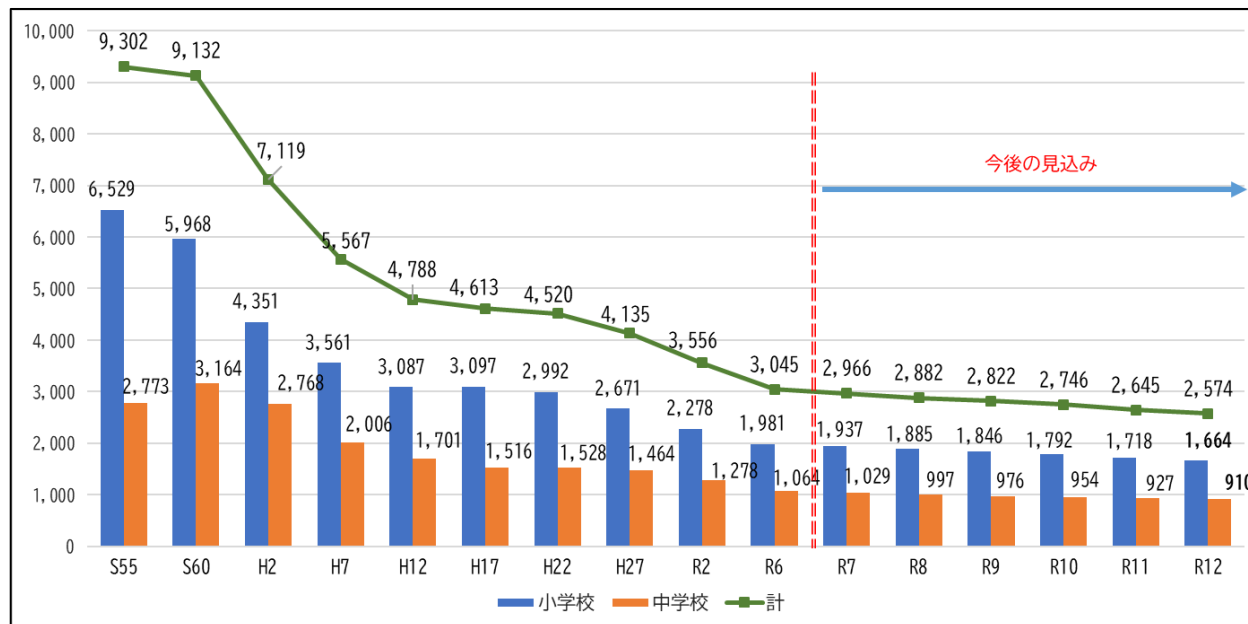


- ・老年人口が**減少に転じる**
- ・年少人口(子ども)の減少

- ・生産年齢人口(現役世代)の減少

児童・生徒数の現状と今後の推移

岡谷市の児童・生徒数は昭和50年代をピークに減少が続いている状況。
現時点の未就学の児童数をもとに、今後もゆるやかに減少傾向が続くことが予測される。



小学校	令和6年度
川岸小学校	300
神明小学校	313
小井川小学校	271
田中小学校	340
湊小学校	78
長地小学校	512
上の原小学校	167
児童計	1,981



	令和12年度
	209
	260
	236
	280
	65
	464
	150
児童計	1,664

中学校	令和6年度
西部中学校	154
岡谷北部中学校	275
岡谷南部中学校	214
岡谷東部中学校	421
生徒計	1,064



	令和12年度
	138
	235
	183
	354
生徒計	910

教育は世界的な状況や社会的な状況によって変わる

教育は時代によって変わる

でも変わらずに大事にしていくことがある
その土地土地で その学校学校で

人を幸せにできるのは、幸せに生きている人

⇒ ウェルビーイング

学習指導要領の変遷

法的拘束力
道徳

昭和
33～35年
改訂

教育課程の基準としての性格の明確化
(道徳の時間の新設、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等)(系統的な学習を重視)

(実施)
小学校:昭和36年度、中学校:昭和37年度、高等学校:昭和38年度(学年進行)

教育の現代化
内容増大

昭和
43～45年
改訂

教育内容の一層の向上(「教育内容の現代化」)
(時代の進展に対応した教育内容の導入)(算数における集合の導入等)

(実施)
小学校:昭和46年度、中学校:昭和47年度、高等学校:昭和48年度(学年進行)

内容削減

昭和
52～53年
改訂

ゆとりある充実した学校生活の実現＝学習負担の適正化
(各教科等の目標・内容を中核的事項に絞る)

(実施)
小学校:昭和55年度、中学校:昭和56年度、高等学校:昭和57年度(学年進行)

生活科新設

平成
元年
改訂

社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成
(生活科の新設、道徳教育の充実)

(実施)
小学校:平成4年度、中学校:平成5年度、高等学校:平成6年度(学年進行)

生きる力
総合的な学習
完全週5日制

平成
10～11
年改訂

基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの[生きる力]の育成
(教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設)

(実施)
小学校:平成14年度、中学校:平成14年度、高等学校:平成15年度(学年進行)

平成15年
一部改訂

学習指導要領のねらいの一層の実現(例:学習指導要領に示していない内容を指導できることを明確化、個に応じた指導の例示に小学校の習熟度別指導や小・中学校の補充・発展学習を追加)

脱ゆとり教育
内容増大

平成
20～21
年改訂

「生きる力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成の
バランス (授業時数の増、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入)

(実施) 小学校:平成23年度、中学校:平成24年度、高等学校:平成25年度(年次進行)
※小・中は平成21年度、高は平成22年度から先行実施

学習指導要領改訂で強調される資質・能力の3つの柱(学力)

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

問いを立てるところからスタートする学びでは…

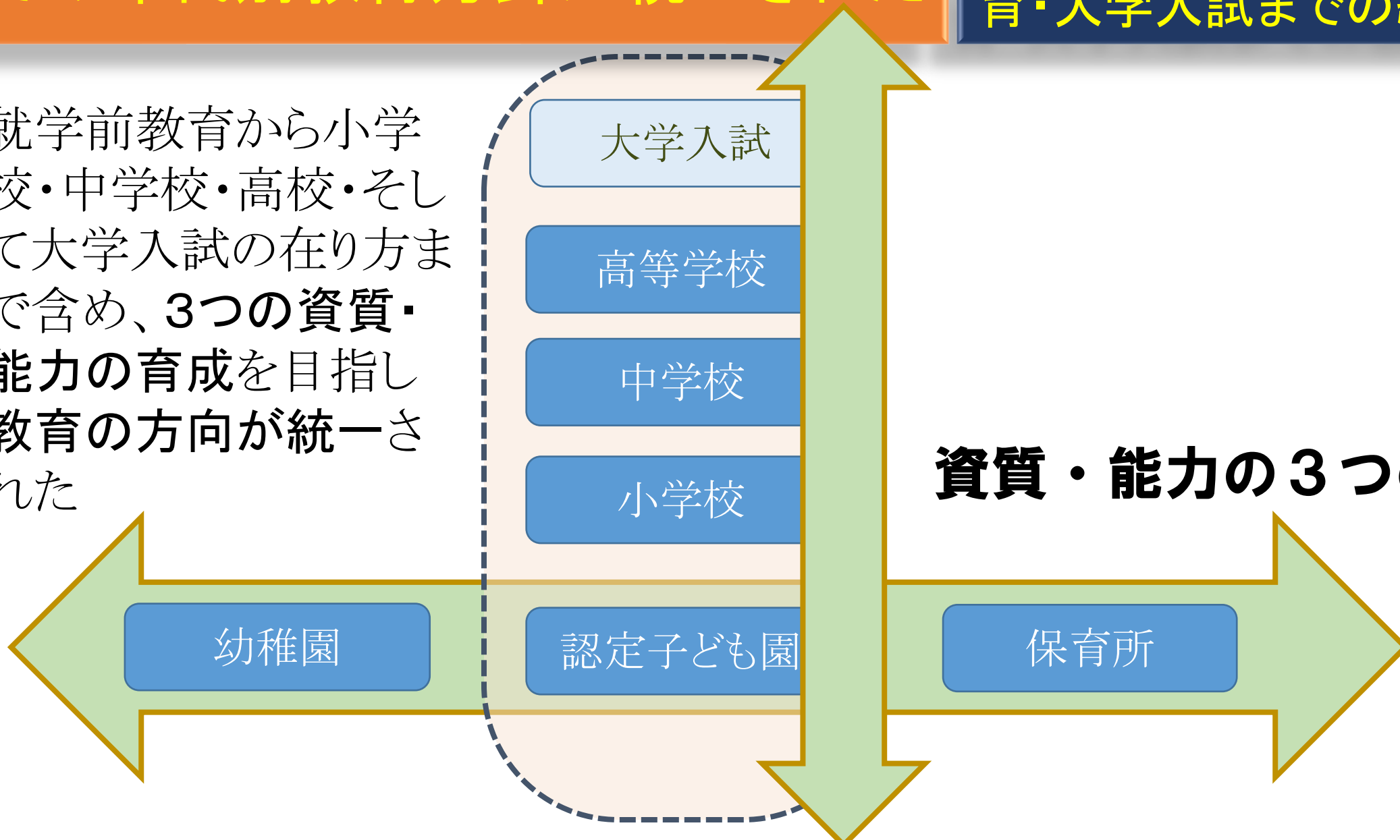
⇒その子の問題意識や、完成、好奇心、価値観、経験、体験などが必要。

それらがないと気づきや発想が出てこない。

全ての年代別教育方針が統一された

就学前教育から高校教育・大学入試までの統一

就学前教育から小学校・中学校・高校・そして大学入試の在り方まで含め、**3つの資質・能力の育成**を目指し教育の方向が統一された



大学入試

高等学校

中学校

小学校

幼稚園

認定子ども園

保育所

資質・能力の3つの柱

第4次長野県教育振興基本計画 【長野県教育の目指す姿】

個人と社会のウェルビーイングの
実現

～ 一人ひとりの「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる
「探究県」長野の学び～

・「ウェルビーイング」とは「身体的・精神的・社会的に良い状態にあること」をいう。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む。個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念



ウェルビーイング
Well-being
II
身体的・精神的・社会的に
良い状態にあること

探究って何？

個人と社会のウェルビーイングを実現するためには、自ら課題や問いを見出し、その解決を目指して、仲間と協働しながら新たな価値を創造したり、一人ひとりが自分の“好き”なこと、“楽しい”こと、“なぜ”と思うことに没頭追求する「探究」が重要です。そのためには、人が生まれながらにして持っている「探究心」を学校においても社会に出ても絶やさず伸ばし続けること、学校が探究する楽しさ、ワクワク感が実感できる場所であることが大切です。学びを、知識やスキルの習得に偏ったものから、探究し続ける中で、知識やスキルを獲得し、他者と協働しながら自分にしかない「知の体系」を構築していくものに転換していかなければならないと考えます。



子どもの頃の体験は人生の基盤

(1) 子どもの頃の体験と、それを通して得られる資質・能力

【子どもの頃の体験】

- ・友だちとの遊び
- ・家族行事
- ・地域活動
- ・家事手伝い
- ・自然体験
- ・動植物とのかかわり

【体験を通して得られる資質・能力】

- 共生感
- 自尊感情
- 意欲・関心
- 文化的作法・教養
- 人間関係能力
- 規範意識
- 職業意識

(国立少年教育振興機構調べ)

(2) 自然体験や友だちとの遊びが減っている

自然体験(「海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたこと」など)や友だちとの遊び(「すもうやおしくらまんじゅうをしたこと」など)が、若い年代ほど減っている

□中学生の頃に海や川で貝を採ったり魚を釣ったりしたことの推移				□小学校4～6年生の頃にすもうやおしくらまんじゅうをしたことの推移			
<60代>	多32%	中35%	少33%	<60代>	多47%	中34%	少20%
<50代>	26%	36%	38%	<50代>	42%	37%	22%
<40代>	24%	36%	41%	<40代>	37%	35%	28%
<30代>	20%	31%	49%	<30代>	28%	33%	39%
<10代>	16%	32%	52%	<20代>	21%	30%	49%

(3) 差の生じる要素

- 能力 ○資質 ○適正 ○意欲 (有ると無いとじゃ天と地以上の隔たりができる)
- 【20無主義】** 気力 目的 自覚 批判 節制 反応 表情 自己 能力
- 定見 関心 常識 抵抗 学力 思想 作法 責任 意識
- 教養 プロセス(作用)

ふるさとで育った私たちは人生の豊かな基盤がある

- ◎ふるさとで 小さいころ 楽しんだ 体験した
- ◎諏訪清陵で友と共に学んだ！楽しんだ！
- ◎楽しい 好き は最上位にある
- ◎楽しんでいる者には勝てない
- ◎体験していく中で自分で決める そして、他者と協働する
- ◎自分が決めた経験の積み重ねでメンタルも強くなる



【令和の日本型学校教育】

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化

ふるさとで育った私たちは人生の豊かな基盤がある

【本当の楽しさとは無限】

知的好奇心というものは無限、底なしなのである。知れば知るほど謎が多くなり、楽しさもどんどん深まっていく。

自分の趣味的な楽しみであっても、それを本当に楽しんでいる人は、けっして厭きることがない。楽しめば楽しむほど、もっと楽しいことが現れる。毎日が発見の連続で、次から次へと新しい楽しさが生まれてくる。この真の楽しみを知っている人の夢は、自分が見る夢である。明瞭な目標があるし、それが実現することの楽しさを想像するだけで笑みが零れる。また、その目標に向かって道を進むだけでもの凄く楽しい。生きていることが、すなわちその楽しさのためでもある。

【与えられた刺激は慢性化する】

一方で、与えられた楽しみしか知らない人は、楽しそうなものに手を出して、すぐに厭きてしまう。どれも印象が薄い。なにをしても、少し時間が経つと内容を忘れてしまう。その時は楽しかったのに、よく思い出せない。ぼんやりとただ時間を過ごしているだけ、楽しそうな雰囲気を楽しんでいるだけだから。

ふるさとで育った私たちは人生の豊かな基盤がある

【自分の中から生まれる楽しさ】

楽しさの本質は、個人の中から生まれる発想にある。自分が思いつき、自分で育て上げた結果初めて得られる。ただ、自分で探せば良いというものではない。いくら図書館やネットで調べても、人に聞いて回っても、けっして見つかるものではない。あなたの楽しさは、世界のどこにもない。過去のどこにも存在しない。あなたの中から生まれ、未来に向かって育つものである。

「**児童の教育は、児童にたちかえり児童によって児童のうちに建設されなくてはならない。」**

『**途上～研究学級の経過**』 淀川茂重

【楽しければ優しくなれる】

物事に不満があるときには、些細なことでも腹が立つ。しかし、なにかに熱中し、自分が充実していると感じるときには、意外なほど精神が穏やかになる。なんでも許せるようになる。他者から見たら、「優しい人」になっているだろう。 (作家: 森 博嗣)

五感で感じる体験

- イギリス インターナショナルスクール ハロウ安比較
 - ・1年間学費1000万円
 - ・ゴルフコース36ホール完備
- キツザニア(東京 甲子園 福岡)
 - ・100種類以上の企業体験

【ふるさとで見たもの】【ふるさとで聴いたこと】【ふるさとで味わったこと】
【ふるさとのおい】【ふるさとで触れたもの】が私たちの体の中にある
『ふるさと』という言葉は『清陵』という言葉に置き換えることができる

学校現場における最大の危機管理

いい授業をする

- 教員業務は多岐にわたるが、その一丁目一番地は授業
- 目の前の子どもの学びを深めていくための日々の授業改善
- 「なんで?」「どうして」「わかった」「できた」
「なるほど!そうだったのか!」「よし、やってみよう」

『最大の生徒指導は、最高の授業!』

ものづくりに代表されるふるさと『岡谷』の
様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの教育スタイル

「岡谷スタンダードカリキュラム」

岡谷の「ひと・もの・こと」に誇りと自信を持ち、
郷土を愛する心を醸成したい

岡谷スタンダードカリキュラムとは

ふるさと岡谷には、豊かな自然、製糸、産業、武井武雄、小口太郎、諏訪湖、御柱など、豊富な学習の素材があり、これらを活かしながら、総合的な学習のほか、理科(科学)や社会(歴史等)などの教科・領域において、岡谷ならではの学習要素を取り入れる学習カリキュラムを構築し、岡谷に学び、育つ子どもたちが郷土を誇りに思い、郷土を愛する心とふるさと回帰の心を育む。

シルク

- 【1年】 生活 いきものと一緒 お蚕様とわたし
算数 くわのはっぱ たくさんついたね(20までの数)
- 【2年】 生活 お蚕様とわたし(飼育体験)
国語 かんさつ名人になろう
算数 動いちゃだめよ お蚕様 (長さ)
- 【3年】 総合 お蚕様とわたし(飼育・調査活動)
総合 近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう
社会 かわってきた人々のくらし(製糸業)
理科 お蚕様を育てよう
- 【4年】 社会 郷土の発展につくす(片倉兼太郎、武居代次郎)
- 【5年】 社会 私たちの生活と工業生産(製糸業から工業へ)
家庭科 一針に心を込めて(シルク糸)
- 【6年】 総合 近代産業遺産歴史めぐりに出かけよう
国語 ようこそ私たちの町へ～岡谷のよさを伝えよう～
社会 世界に歩みだした日本(製糸王国岡谷と片倉兼太郎)
- 【1～6年】 道徳 岡谷の「もの」に学ぶ道徳 蚕霊供養塔
道徳 岡谷の『ひと』に学ぶ道徳 片倉兼太郎、武居代次郎



岡谷の生活環境を反映しながら作り上げられてきた 食材を題材とした家庭科学習



【単元のねらい】

郷土の保存食材である「塩丸いか」、「信州みそ」、「岡谷のうなぎ」の特色を調べたり実際に調理したりすることを通して、岡谷では気候や文化に適したくらしが営まれてきたことや、そのくらしは地域の人たちの様々な工夫や努力に支えられていることに気づき、地域の中でくらしてきた自分自身の成長を振り返り、こらからも家族や地域の人たちとともに、よりよい生活を築いていこうとすること



子どもたちの学習問題

家庭科

社会科

算数

道徳

1 長野県は どうしてこんなに幸福度や魅力度が高いのだろう。

わたしたちは、この地(岡谷)で、どのようにくらしているのだろう。

2 わたしたちは、この地(岡谷)で、どのようにくらしているのか、衣食住の工夫を考えよう。

3 なぜ塩丸いかはこんなにしょっぱいのだろう。

4 なぜ岡谷には、みそ工場がたくさんあるのだろう。

5 「うなぎのまち岡谷」はどのように知られていったのだろう。

6 岡谷の食材はどんな味なのだろう。

7 地域の中で、わたしたちはどのように成長してきたのだろう。



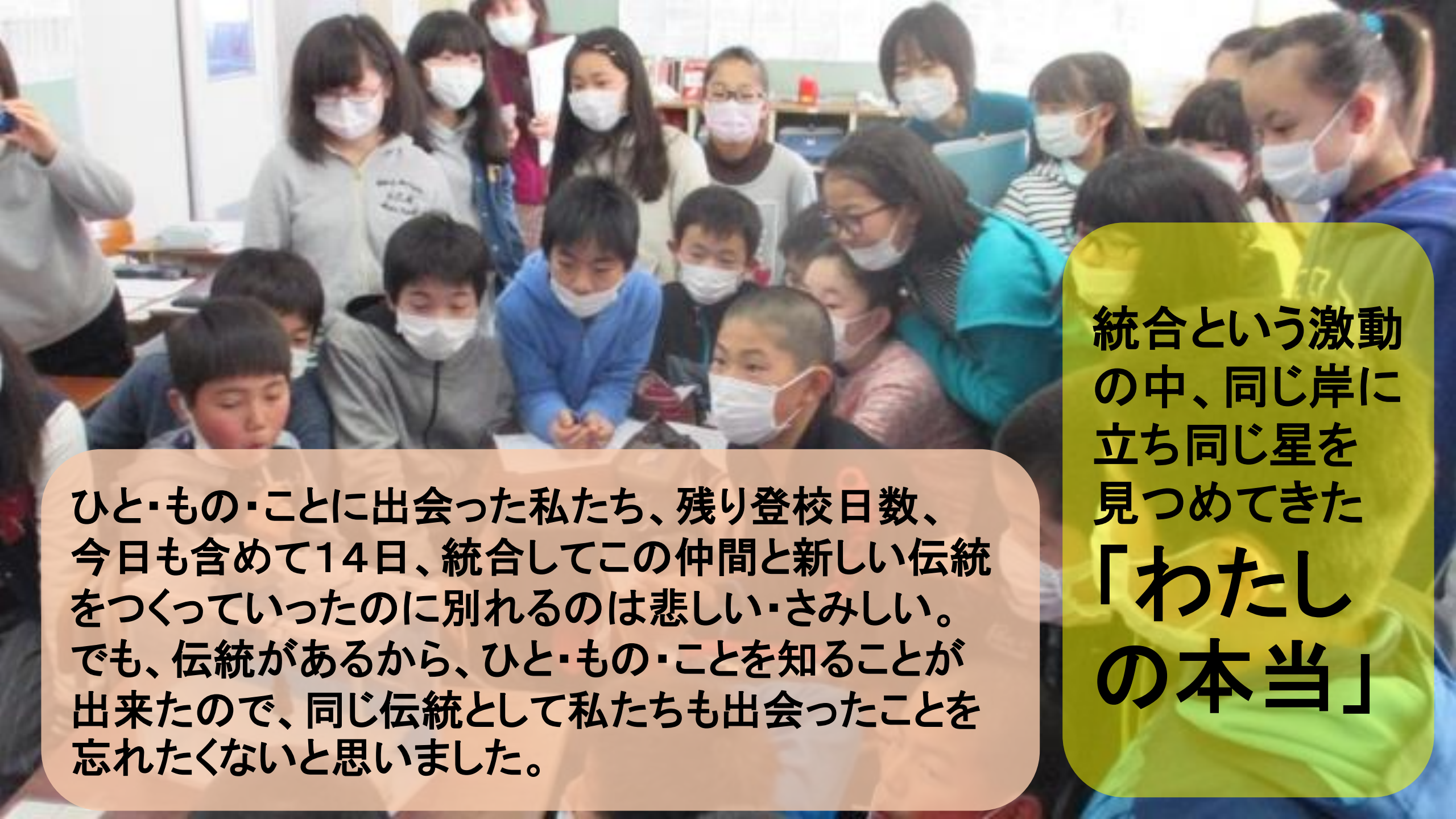
**塩抜きをしていない塩丸いかを
口にした時の子どもたちの表情**



**かつて製糸工場だった
松亀味噌工場の屋根組
の写真を見ながら、
そのつながりを真剣に
考える姿**



**岡谷の特産であるうなぎ
のたれを使った「うなだれ
半熟卵かけご飯」を作り食
す子どもたちの体**



ひと・もの・ことに出会った私たち、残り登校日数、
今日も含めて14日、統合してこの仲間と新しい伝統
をつくっていったのに別れるのは悲しい・さみしい。
でも、伝統があるから、ひと・もの・ことを知ることが
出来たので、同じ伝統として私たちも出会ったことを
忘れたくないと思いました。

統合という激動
の中、同じ岸に
立ち同じ星を
見つめてきた
**「わたしの
本当」**

職場体験学習(中2生)



大切なキャリア教育

岡谷に息づく
「ひと・もの・こと」

社会
参画

人との
触れ
合い

自分自
身と向
き合う

中学校における岡谷スタンダードカリキュラムの核

職場体験「のぼり旗」



中学生の学びと地域・社会が提供できる支援とを結び、目に見える形にすることで、地域の方々に、中学生が地域の一員として学習していること、それに協力してくださる企業や事業所があることを広く知っていただく。

職場体験に向かう生徒の気持ちの高まり

受け入れてくださる事業所の方々の思い

相互のかかわり



地域が元気に

職場体験「のぼり旗」



新聞見たよ。あののぼり旗いいよね。

けっこうたくさんさんの受け入れ先があるんだね。

のぼり旗が立って街が明るくなったよ。

受け入れ先が増えらるともっと街が明るくなるね。

うちの会社も受け入れたいなあ。でも商社だから、中学生が体験するのは難しいんだよなあ。

少しずつでも思いが地域に届いている

岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」と学ぶ岡谷スタンダードカリキュラム

ふるさと回帰の心



抗えない少子・人口減少化の波

子どもたちが小さいうちから、岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」に触れ、岡谷のよさを心に持ち、いずれはふるさとに帰って来ようとするふるさと回帰の学習実践

岡谷の子どもたちに願うふるさと回帰

心根に、岡谷で育った日々がある

ここ岡谷で学び、岡谷の魅力と誇りを身につけた子どもたちが、その力を携え、やがて広い世界に羽ばたこうとする

岡谷というふるさとを体に抱え込んだ心豊かな人を育てる

その育ちを支えていくのが私たち
**教師の
使命**

ふるさととの力

- 心を動かす本物・実物との出会いが、子どもの主体性を育み、「見方・考え方」を豊かにする
- 対象への関心の高まり(好奇心・探究心)が、思考力・判断力・表現力を豊かにする
- 身近な「ひと・もの・こと」との触れ合いが、豊かな人間性や学びに向かう力を引き出す

ふるさととの力

実感ある体験が、心を動かし、心が耕される

心に燦を灯す (非認知能力)